

避妊・去勢手術

■ 手術の可能な時期

健康で発育に問題がなければ、一般的には生後6カ月齢くらいから避妊・去勢手術を受けることができます。発育状態の確認をしますので、手術希望の方は一度ご来院下さい。

避妊・去勢手術は年齢が高くなるほど手術による病気予防のメリットが少なくなり、手術のリスクも高くなります。

年に1～2回みられる発情期にはオス・メスともかなりの精神的・身体的ストレスがかかります。繁殖の予定がなければ早めに手術を受けたほうがよいでしょう。



■ 手術方法

全身麻酔処置後、呼吸機能や循環機能を厳しくモニターしながら手術を行います。

避妊手術ではおへそよりやや下の腹部を切開し、腎臓などの臓器の近くにある左右の卵巣を慎重に引き出して摘出します。去勢手術では陰囊近くの皮膚あるいは陰囊を切開し、左右の精巣を摘出します。

手術前から術後まで鎮痛剤を使用し、出来る限り痛みを減らす処置をしています。

■ 手術によって防ぐことのできる病気

メスでは卵巣からのホルモン産生がなくなり、性ホルモンが関与する疾患を防ぐことができます。犬では、最初の発情が来る前に避妊手術を受けると乳腺腫瘍の発生率をかなり抑えることができるといわれています。細菌感染により子宮内に多量の膿が貯留し、全身状態が悪化する子宮蓄膿症も避妊手術により防ぐことができます。

オスでは雄性ホルモンが関係する前立腺肥大や、犬では会陰ヘルニア、肛門周囲腺腫瘍などを防ぐことができます。また、精巣そのものの腫瘍も防ぐことができます。

■ 手術後の変化

• 体重

性ホルモンがなくなることで行動量が減少し、消費カロリーが2割程度減少するため、手術前に比べて肥満になりやすいといわれています。

手術後は運動量や体重の変化をチェックし、食事の量やタイプをかえることで肥満を防ぐことができます。

• 性格

生まれもった性格は基本的には変わりません。しかし、手術後は発情期の興奮や闘争、放浪などがなくなるため行動が安定しておとなしくなるといわれています。

